

吉備路の詩人3人展

上林猷夫・安東次男・飯島耕一

2018.2/11[日]
→5/6[日]

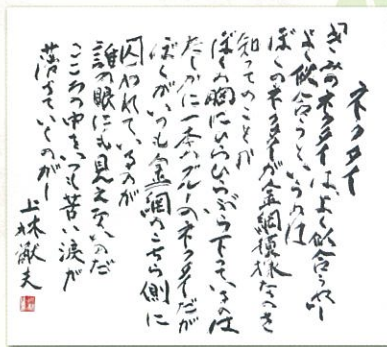
吉備路は詩作活動が盛んな地域で、これまで多くのすぐれた詩人を輩出してきました。今回の展示では、吉備路ゆかりの詩人として、上林猷夫・安東次男・飯島耕一の3人をご紹介します。当館が収蔵している貴重な資料の中から、岡山にゆかりのある作品や、吉備路文学館との交流がうかがえる資料を中心に、直筆の原稿、色紙、書簡、作品が発表された当時の雑誌、初版本、写真などを展示いたします。本展示を通して、3人の詩人の魅力に触れていただければ幸いです。

かんばやし みちお

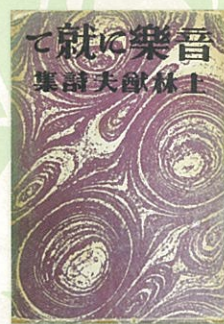
上林猷夫 (大正3年～平成13年／札幌市生)



幼い頃、母の兄(岡山出身)夫妻の養子となり、岡山と縁ができる。大阪府立今宮中学校を経て、同志社高等商業学校を卒業。昭和9年、全国詩誌「日本詩壇」同人となり、詩作を始める。詩誌「魂」(後に「関西詩人」と改題)、「豚」(後に「現代詩精神」と改題)、「花」創刊を経て、「日本未来派」を創刊する。日本現代詩人会の理事長・会長を数次にわたりつとめた。主な詩集に『音楽に就て』、『都市幻想』(第三回H氏賞受賞)、『機械と女』、『遠い行列』など。



墨書「ネクタイ」

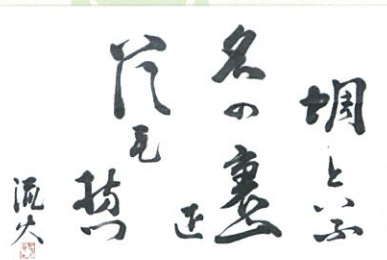
第一詩集『音楽に就て』
(現代詩精神社／昭和17年)

あんどう つくお

安東次男 (大正8年～平成14年／苫田郡東苫田村大字沼(現・津山市沼)生)



東京帝国大学経済学部在学中より、加藤楸邨(かとうしゅうそん)について俳句を学び、戦後、句誌「風」を創刊する。昭和24年、詩に転じ、第二次「コスモス」に参加。その後、フランス現代文学の翻訳、日本古典詩歌に関する評論の執筆などを行う。主な著書に、詩集『六月のみどりの夜わ』、詩集『蘭』、評論集『澱河歌の周辺』(第一四回読売文学賞受賞)、『風狂余韻 芭蕉連句新釈』(第四一回芸術選奨文部大臣賞受賞)、句集『流 安東次男句集』(第一二回詩歌文学館賞受賞)など。

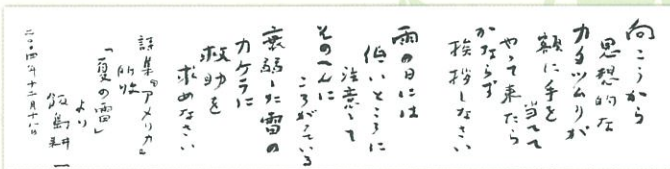
軸「鯛といふ名の裏山をいつも持つ 流火」
(流火…安東次男の俳号)第一詩集『六月のみどりの夜わ』
(コスモス社／昭和25年)

いいじま こういち

飯島耕一 (昭和5年～平成25年／岡山市生)



第六高等学校在学中より詩作を始める。昭和27年、東京大学文学部仏文科卒業。國學院大學教授を経て、平成12年まで明治大学教授。主な著書に、詩集『他人の空』、評論集『悪魔祓いの芸術論』、詩集『ゴヤのファースト・ネームは』(第五回高見順賞受賞)、詩集『夜を夢想する小太陽の独言』(第一回現代詩人賞受賞)、小説『暗殺百美人』(第六回 Bunkamura ドゥ・マゴ文学賞受賞)、詩集『アメリカ』(第五六回読売文学賞・第二〇回詩歌文学館賞受賞)など。



額「夏の雷」より抜粋

第一詩集『他人の空』
(書肆ユリイカ／昭和28年)

うこんざくら
鬱金桜茶会のお知らせ

日時 4月14日(土) 9:30～15:00
会場 吉備路文学館



第6回全国文学館協議会共同展示
「3.11 文学館からのメッセージ」

文学で読む関東大震災展
3月1日(木)～5月6日(日)